



# Weekly Market Report

Jul 31, 2023

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

日銀の金融政策についての方針が示された中、今週から発表される米経済指標の結果に注目。

### USD/JPY (1週間の値動き)



### コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円は、27日FOMCが将来の利上げについてタカ派トーンを後退させたことから、米ドル/円は一時139.37円付近まで売りが先行。その後、日銀金融政策決定会合（BOJ）にて、イールドカーブ・コントロール（YCC）に修正を加えるとの事前報道から、一時138円台後半まで急落した。翌28日に行われたBOJでは、「長短金利操作について、より柔軟に運用する方針」へ変更され、日銀の結果公表直後には、一旦米ドル/円は139円台前半から141円付近へ急騰したものの、直ちに押し戻され、週間下値138.065円まで下げるなど、結果上下に3円近く振幅した。今週はISM景況指数や雇用統計の発表が控えており、米経済の底堅さが再確認されれば、米ドル/円が強含むことが期待される。（市場営業部/下出）

### 今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
8/1(火)	(米国) ISM製造業景況指数	46.9
8/1(火)	(米国) JOLT求人	9,600k
8/2(水)	(米国) MBA住宅ローン申請指数	-
8/2(水)	(米国) ADP雇用統計	183k
8/4(金)	(米国) 失業率	3.6%

### USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

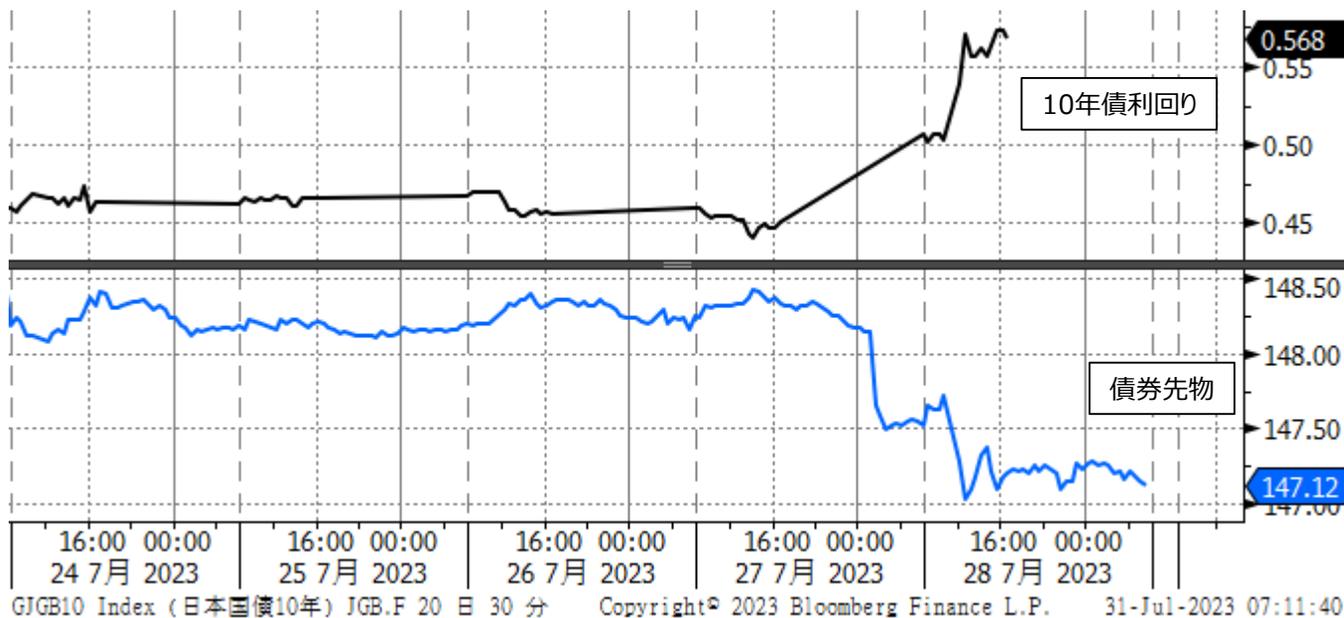
### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
嵯峨大輝	137.80 – 142.30	日銀会合を受け、上値が重い展開を予想するも、米雇用統計など経済指標から値幅が出る展開には注意したい。
黒川隼汰	139.50 – 143.00	米重要経済指標目白押し。「9月FOMCでの利上げはデータ次第」発言から、ボラの激しい週になるか。

## 2. 円金利相場概況

今週は10年国債金利の適正水準を探る展開か。

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

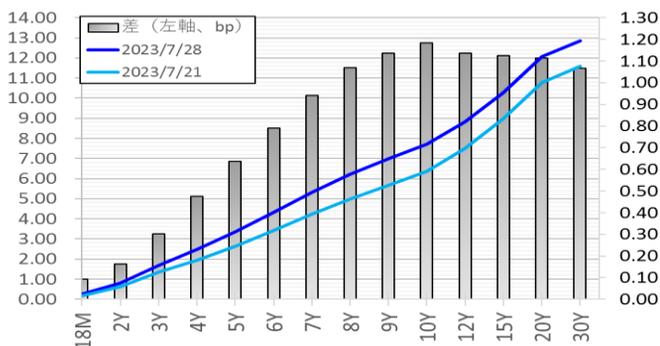


(出所) Bloomberg

### コメント

先週の10年国債金利は、24～27日はレンジで推移するも、28日の日銀金融政策決定会合の結果を受けて一時約9年ぶりの水準まで上昇した。日銀は28日、長短金利操作（YCC）の柔軟化を決定。0.5%の長期金利の上限の目途は残したまま一定程度の超過を容認したほか、新たに1%を長期金利の事実上の上限とする方針を示した。発表を受けて10年国債金利は一時0.575%と、2014年9月以来、約9年ぶりの水準まで上昇。市場では今後日銀がYCCを撤廃し、マイナス金利政策からの脱却を目指すとの観測が高まった。しかし、その後の植田総裁の会見にて同観測が後退したことで、10年国債金利は0.540%まで低下して取引終了した。今週は1日の財務省10年債入札と、2日の日銀国債買い入れオペに注目。市場参加者の需給バランスを見極め、10年国債金利の適正水準を探る展開か。（市場営業部/平田）

### 金利スワップ変化（1週間）



### 10年円金利スワップ推移（5年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
飯野りさ子	0.50% - 0.70%	YCC運用柔軟化による国債売りが継続し、長期・超長期を中心に緩やかに金利上昇する見込み。10年債入札の結果に注目。
亀田則子	0.49% - 0.69%	先週末の日銀会合・YCC柔軟化を受け、金利は上振れしやすいと予想。国内の10年利付国債入札、米国の金利動向に注目。

### 3. 今週のトピックス

#### 英国経済動向

#### 英国中央銀行による金融政策とボンド相場動向

##### BOE金融政策決定概要

2023年6月21日開催された英国中央銀行（以下BOE）の理事会では、政策金利を4%から4.5%へ0.5%引き上げることが決定【図表1】。BOEは高インフレに対応するために継続利上げ中であり、利上げ幅は3会合ぶりに0.5%まで拡大し、引き上げは13回連続となった。0.25%の利上げが織り込まれていた中、0.5%の利上げはサプライズとして市場で受け止められ、政策金利が5%となるのは2008年以来15年ぶりとなる。労働市場の逼迫と需要の底堅さを背景に発表されている経済指標は上振れており、インフレ抑制を最優先事項として、委員の9人中7人が0.5%への利上げを支持したとされている。次回2023年8月の理事会では市場予想の6割が0.25%、4割が0.5%と分かれ、BOEメンバー間でも先行きの経済、物価の見方が割れてきている中、引き続き今後のインフレ動向、賃金指数等の指標に注目が集まる。

##### 英国経済動向

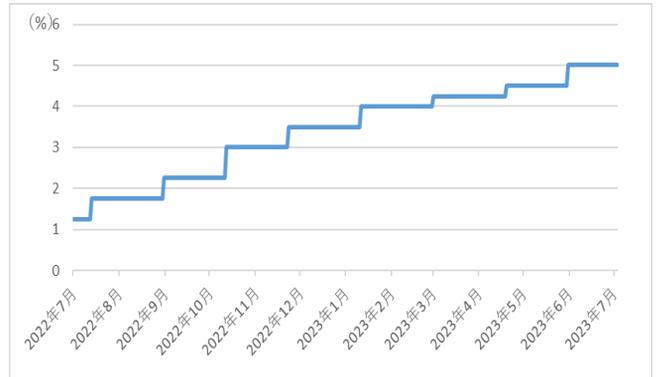
英国国家統計局（ONS）によると2023年6月の消費者物価指数（コア除く）は、前年同月比+7.9%の上昇。5月のインフレ率+8.7%から鈍化したとはいえ、依然としてBOEの目標値である2%を大幅に上回っており、高い水準で推移している。高止まりが続いてきた食品品価格（前年同月比+18.3%→同+17.3%）の上昇率がやや鈍化したものの、依然として家計の大きな負担となっている。米国、ユーロ圏ではインフレピークアウトの兆しが見える中、英国内では賃金上昇以上の物価上昇を受け、家計が圧迫され、大幅な賃上げを求めて、医療、交通等公共サービスの中心に広範なストライキが頻発している。【図2】

##### ボンド相場動向

対ドルでは米連邦準備制度理事会（以下FRB）よりも早い段階で利上げに踏み切り、主要国の中でも利下げの開始時期が意識されていたが、想定以上の根強いインフレを受けた金利上昇を受け、当面はボンド高圧力がかかりやすい展開を予想。一方、対円でも植田日銀総裁が18日のG20財務相・中央銀行総裁会議後の記者会見の場で、物価見通しに変化がなければ金融緩和を継続すると明言。引き続き金融緩和は継続されるとのスタンスの中、ボンド高基調は継続する展開を予想。

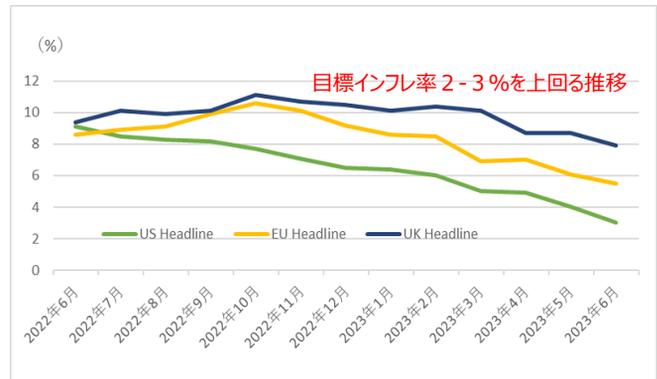
（市場営業部/山下）

【図1】BOEの政策金利見通し（バンクレート）



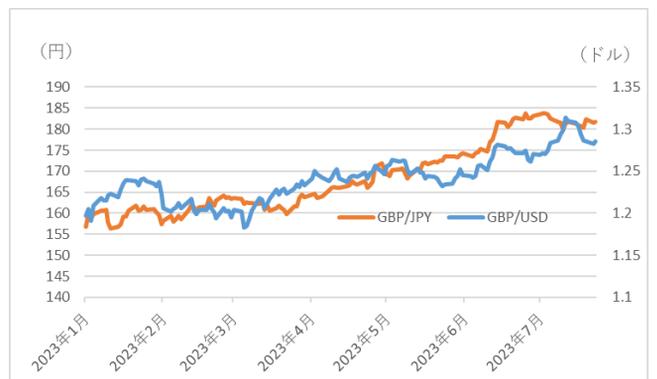
（出所：Bloomberg）

【図2】主要国の消費者物価指数（CPI）



（出所：Bloomberg）

【図3】対円、対米ドル推移



（出所：Bloomberg）

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会